

初期消火器具 の概要と設置 意義

火災初期対応のための安全対
策を紹介します

設置の重要性

大規模地震等が発生した際には、同時多発火災が起こり、消防隊がすぐに到着できないことがあります。

地域の皆様が消火栓に接続し、有効な初期消火活動を行うことができる体制づくりが非常に重要です。

初期消火器具を整備➡延焼拡大を防ぐ、被害を大幅に減らすことが期待できる。

スタンドパイプ式初期消火器具 1 基による**焼失棟数 3 ～ 5 棟の削減**効果があるとされています。



地域の初動対応

地域住民が自主的に迅速な初期消火を行う体制を整えることが重要です。

初期消火器具の特徴

消防水利を活用した初期消火器具は放水量が多く、効果的かつ持続的に延焼を防止します。

自治体の施策強化

全国の自治体で初期消火力強化が重要な施策として推進されています。

2025年市内の火災779件のうち7割で市民により何らかの初期消火活動が実施されている。過去3年で自治会、町内会による初期消火器具での消火事例5件が実施されている。

初期消火器具とは



可搬式初期消火器具



初期消火箱

初期消火器具の定義

初期消火器具は大規模災害時の延焼防止用に設置される消火資機材の総称です。※通常火災での消火も可能

固定式初期消火箱の特徴

一定の場所に設置、中の資機材を消火栓まで搬送し使用する。

スタンドパイプ式の利点

可搬性に優れ火点に応じて移動しやすく、柔軟な消火活動が可能です。

地域防災力の向上

初期消火器具の普及は地域防災力を高め、特に木造密集地で有効です。



設備の構造と特徴

初期消火器具の構成

消火栓に接続する**ホース、筒先、媒介、スタンドパイプ、可搬台車**が主要な構成要素です。

固定式の収納と使用

収納箱に整理されたホースと筒先は、住民がすぐに取り出して使用できます。

スタンドパイプ式の特徴

軽量構造で複数のホースと一体型パイプを消火栓に装着し迅速に放水可能です。



消火栓カギ



消火栓のフタを開け、水を出すためのスピンドルを回す器具です。新型は十字形、旧型はT字形の形状です。



消火用ホース

差し口 受け口

消火用ホースです。長さは15m・20m、ホース口径は65mm・50mm・40mmがあります。



ツツサキ



消火用ホースの先端に取り付け、放水するための器具です。先端のノズルで、水の勢いや形状を変えられます。



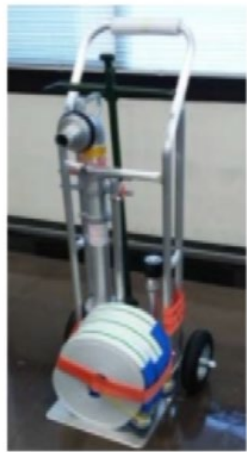
バイカイ

口径が違う差し口と受け口を結合するための器具です。



初期消火箱

ホースの口径とツツサキの仕様が異なる場合があります。



台車

消火器具を積載し移動するためのものです。
これまでに説明した各器具を積載します。



スタンドパイプ

消火栓が深い位置にある場合に、
消火用ホースへの導水を容易にするための器具です。

制度的意義と補助の役割

補助制度の概要

横浜市では初期消火器具の新規設置や全更新に費用の**3分の2を補助**し、**上限は20万円**です。30万円の設置費用の場合、20万円は横浜市が補助 = 自治会負担額10万円

部分更新の支援

ホースや筒先など部分的な劣化には費用の**3分の2を補助**、**7万円上限**で補助があり

重点対策地域の特別補助➡泉区は該当外

令和7年度から重点対策地域では補助率が9割、上限額は27万円に大幅拡充されています。



訓練実施の重要性

初期消火器具の操作手順

消火栓の開扉やホース延長、筒先操作などの正確な手順が重要です。

高い訓練実施率

横浜市では95%以上の自治会が訓練を経験し、7割以上が複数回参加しています。

地域連携と役割分担

継続的訓練により連携体制が強化される。

参加しやすい訓練環境

防災センターの体験会や合同訓練が住民の参加を促進しています。

中田地域では、中田連合自治会防災訓練、しらゆり連合自治会防災訓練、大規模火災対策訓練

➡合同実施を推奨しています。いざというとき近隣自治会町内会枠を超えて活動することも想定されます。

奏功事例とその教訓

横浜市記者発表資料

令和8年2月20日
消防局泉消防署

市民の勇敢な行動により、火災の被害拡大を防ぎました！

～泉消防署長から感謝状を贈呈します～

泉区で発生した火災現場において、付近に居合わせた5名の方が連携して通報、避難誘導及び消火活動を実施したことで、火災の被害拡大を防ぎました。

この勇敢な行動に対し、泉消防署長から感謝状を贈呈します。

1 日時

令和8年2月27日（金）13時30分から14時まで

2 場所

泉消防署 4階会議室
泉区和泉中央北五丁目1番1号
※泉区役所内3階消防署へお越しください。

3 被贈呈者

藤川 泰江 様
大村 淳 様
川飛 達夫 様
馬場 貞一 様
須山 健太郎 様



スタンドパイプ式
初期消火器具

放水活動イメージ

4 功績概要

令和8年1月16日（金）泉区中田南で発生した火災現場において、被贈呈者らは火災を発見し、119番通報、付近住民の避難誘導及びスタンドパイプ式初期消火器具により放水活動を実施しました。

本火災は被贈呈者らが発見・通報・初期消火を連携して実施したことで、被害を最小限に抑えることができました。

5 取材について

取材を希望される場合は、当日の13時20分までに直接現地にお越しください。
※車でお越しの際は、泉区総合庁舎の駐車場をご利用ください。

お問い合わせ先		
消防局泉消防署総務・予防課長	内山 雅彦	Tel 045-801-0119



【奏功事例 1】

専用住宅から出火した火災で、近隣住民 3 名による初期消火箱を使用した放水活動が行われました。3名の内、初期消火器具の訓練経験者は 1 名でしたが、経験者の適切な指示によりホース延長から放水までの活動が迅速に行われました。

【奏功事例 2】

専用住宅から出火した火災で、近隣住民 1 名が火災現場から100m程離れたところから初期消火器具一式を火元付近の消火栓まで搬送し、ホースを延長。通行人に協力を要請し、消火栓のバルブを開けてもらい、消防隊到着前に放水活動が行われました。

【奏功事例 3】

共同住宅の火災で、近隣の住民 3 名が付近に設置されていた初期消火器具を使用し、2 階の出火室に放水を実施して延焼防止に寄与したものの。

【奏功事例 4】

重点対策地域内の専用住宅火災において、近隣住民 2 名が付近に設置されていた初期消火箱から50mmホース 2 本延長し消火栓に結合し、早期に出火棟及び類焼棟に放水活動を実施し、被害の拡大を防いだもの。



奏功事例から得られる教訓

訓練の重要性

平常時の訓練が初動対応の成功を左右し、手順理解が放水成功に直結します。

器具の設置と管理

器具の設置場所共有や鍵の保管、動線確保は迅速な対応に不可欠です。

役割分担

複数人での連携には事前の役割分担確認

最後に

初期消火器具の設置（または更新）をぜひご検討ください！

災害時の初動対応を左右する最も重要な備えです。

継続的な訓練への参加をお願いします！

参加者が多いほど、地域の安全性が高まります。

消防署が現場でサポートします。

近隣自治会との合同訓練を推奨します。

本番は自治会をまたいで協力する場面が想定されます。

顔の見える関係づくりと役割分担が災害時の力になります！